

第一回「知の拠点」整備構想検討委員会資料

これまでの経緯及び構想策定趣旨

福知山公立大学



- 設置者 公立大学法人福知山公立大学
- 学部等 地域経営学部(地域経営学科・医療福祉経営学科)
- 概要 平成28年4月開学(全国6例目となる私大から公立大学法人への設置者変更)。
公立化を機に全国から学生・教員が集まる。
(昨年度一般入試は全国公立大のうち5番目に高い志願倍率)
現在の入学定員120名。今後入学定員200名に増員をめざす。

京都工芸繊維大学 福知山キャンパス



- 設置者 国立大学法人京都工芸繊維大学
- 学部等 工芸科学部 3・4回生を対象とする
「地域創生 Tech Program」専門課程
(福知山市や京都府北部の製造企業でのインターンシップを中心とする2年間の教育課程)
- 概要 公立大隣にキャンパス開設(旧福知山女子高跡地)
平成30年秋より講義・研究がスタート。
(1学年約30名、31年度以降2学年約60名を予定)

福知山公立大学を取り巻く経緯

平成26年度

- ・平成26年10月 「4年制大学のあり方に関する有識者会議」の開催
- ・平成27年 2月 「公立大学検討会議」の開催
- ・平成27年 3月 公立大学設置の基本構想 「教育のまち福知山『学びの拠点』基本構想」を策定

平成27年度

- ・平成27年 9月 公立大学法人定款等の市議会承認
- ・平成27年11月 公立大学法人設立、大学設置者変更認可(京都府・文部科学省)
- ・平成28年 3月 福知山公立大学 第1期生入試(私立型:志願者1,669名/定員50名)

平成28年度

- ・平成28年 4月 公立大学法人設立、福知山公立大学開学(新入学生58名、編入学生2名)
国立大学法人京都工芸繊維大学福知山キャンパス開設(平成30年9月講義開始予定)
- ・平成28年 6月 福知山公立大学 定員増加の学則変更届出(50名⇒120名)
- ・平成28年12月 福知山公立大学・京都工芸繊維大学 大学間連携協定締結
- ・平成29年 3月 福知山公立大学 初の国公立型(文理分割方式)入試(志願者926名/定員120名)
成美大学短期大学部 閉校

平成29年度

- ・平成29年 4月 福知山公立大学 2期生入学(新入学生146名、編入学生12名)
- ・平成29年 5月 産学連携組織「北近畿地域連携会議※」発足
(※福公大、京都工繊大、兵庫県立大ほか地元企業約50社が参画)
- ・平成29年 9月 福知山市「知の拠点」整備構想検討委員会設置

<趣旨>

平成28年4月に開学した福知山公立大学の基本構想を定めた「教育のまち福知山『学びの拠点』基本構想」※を踏まえ、公立大学の学生数の増加や京都工芸繊維大学福知山キャンパスの開設、国で行われている「地方創生に資する大学改革」の議論など、開学後の状況変化に対応しつつ北近畿の地方創生に資するため、福知山公立大学及び京都工芸繊維大学の両大学を核とした大学の教育研究環境の充実を図るための具体的な実施方針として「知の拠点整備構想」を策定する。

※「教育のまち福知山『学びの拠点』基本構想」について

福知山公立大学の開学に向けて、平成27年3月に策定した本市における「新たな4年制大学」の意義及び必要性、基本的な理念、教育方針、学部学科体制等について示した基本構想。

この構想において、「新たな4年制大学」について、

- ・ 調査研究を集積、発信するための情報発信拠点
 - ・ 協調・共存する地域社会の実現に向け、行政、企業をはじめとする様々な組織をつなぐ連携・交流拠点
 - ・ 国立大学法人京都工芸繊維大学北京都分校（仮称）との連携拠点
- といった役割が記述されている。

知の拠点整備構想の概略図と検討事項

<概略図>

平成29年度に2大学を核とした地域創生を実現するために必要なキャンパス等の整備構想を策定。
平成30年度より本構想に基づき計画的な施設整備の実施を目指す。



福知山市

「知の拠点」整備構想検討委員会

福知山市、京都工繊大、福知山公立大の3者で構想策定本部を設置するとともに、大学関係者や北近畿地域の産業、教育、行政、地域等から有識者を招き、両大学が北近畿の地域創生を牽引する「知の拠点」となるための教育研究体制やキャンパス等の整備構想の検討を行う。



京都・福知山市の新しい公立大学

福知山公立大学

The University of Fukuchiyama

文理連携による
地域と協働した
教育研究の推進



京都工芸繊維大学

KYOTO INSTITUTE OF TECHNOLOGY

<検討事項>

① 地方大学による地域創生を牽引し、「知の拠点」整備構想を実現するための両大学の文理連携や地域との連携強化に関すること

⇒ 両大学の教育研究連携、地域連携、福知山公立大の学部の充実、京都工芸繊維大の研究拠点のあり方など

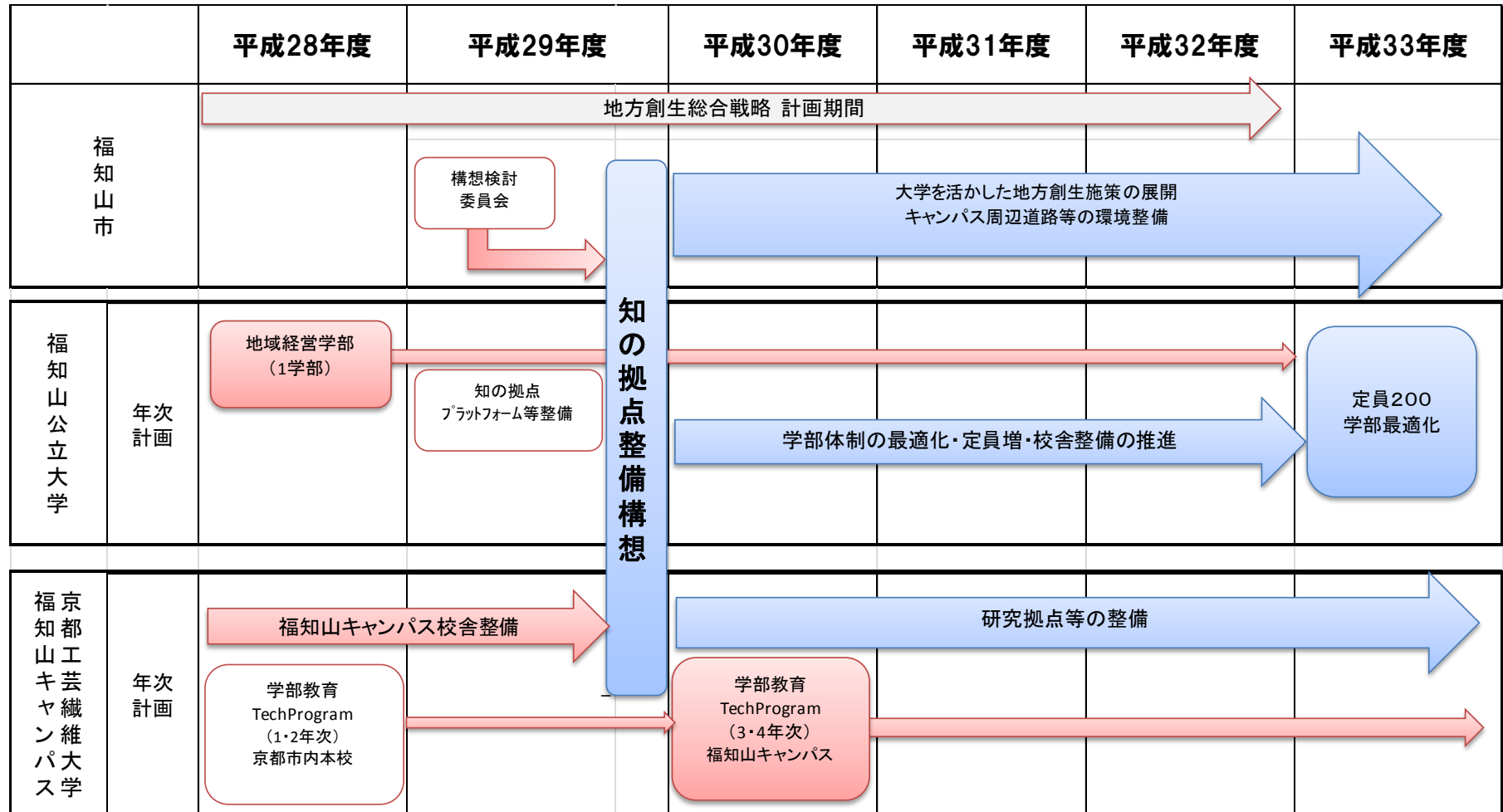
② キャンパス整備計画に関すること ⇒ 上記構想実現のためのキャンパス周辺の土地・建物利用計画、道路・周辺インフラ等の整備計画

③ 財政シミュレーションに関すること ⇒ 上記構想を実現するための新財政シミュレーションの策定

委員会審議スケジュール

回数	日程	内容等
第1回	9月20日(金) 午後2時	■委員会位置づけ確認、委員長・職務代理選任 ■議事 - 経緯、議論の背景(国等の動向等) 2大学の現状と今後の方向性 2大学の地域連携、文理連携(下記①)の議論の方向性
第2回	10月27日(金) 午後 2時	①福知山公立大学・京都工芸繊維大学の文理連携、地域連携に関すること ■文理連携の具体案 ■福知山公立大の将来構想案 など ②キャンパス整備計画 ■公立大既存建物整備方針 ■工繊大の施設のあり方 ■道路ほか周辺インフラに関すること ③財政シミュレーションに関すること ■経常経費 ■投資的経費 ④その他
第3回	11月17日(金) 午後 2時	
第4回	12月22日(金) 午後 2時	■整備構想とりまとめ

年次スケジュールの方向性



両大学の文理連携について

公立大学の役割について

- 公立大学は、地方公共団体が設置・管理するという性格から、地域における高等教育機会の提供と、地域社会での知的・文化的拠点として中心的役割を担っており、それぞれの地域における社会・経済・文化への貢献が期待されている。（文部科学省HPをもとに作成）
- 地方自治体が自ら設置する公立大学においては、教育・研究の成果を通して、着実な地域貢献を行うことが求められている。どのような機能を使い、どのような課題に対して貢献を行うのかについては、それぞれの大学で異なる特徴がある。
- さらに、人材育成を通じた地域貢献という側面からは、地域から求められる人材像に従って、教育目標、輩出されるべき人材のスキル、コンピテンシーについても検討されなければならない。
（「時代をLEADする公立大学 公立大学の将来構想に向けての議論の方向性と可能性」
（2017年5月 一般社団法人公立大学協会 公立大学の在り方に関する検討会議）をもとに作成）

国における地方大学の議論について

「地方創生に資する大学改革に向けた中間報告」

(平成29年5月 地方大学の振興及び若者雇用等に関する有識者会議) をもとに作成

○ 基本的な問題認識

- ・ 地方大学は「平均点主義」から脱却し、特色を出すことが必要。
- ・ 産業構造の変化、地域のニーズに応じた人材育成・研究成果の創出が必要。

○ 地方の特色ある創生に向けた地方大学等の対応

- ・ 「特色」を求めた大学改革・再編
多様な進学需要に対応し、地域を担う多様な人材やグローバル化に対応した人材を育成し、地域の生産性を高めることが重要。
この領域・分野ならこの大学といった「特色」にも配慮した大学改革を進める。
- ・ 地方での役割・位置づけの強化
地域の産業界や地方大学等とも連携をしながら、地域産業や人材育成に関するビジョンを示し、地域の中での地方大学の役割・位置づけを明確化し、地域の産業構造・就業動向等を踏まえた産官学連携を強力に推進する。
- ・ 地域の生涯学習、リカレント教育への貢献や地域のシンクタンクとしての機能

<議論の背景>

- 「教育のまち福知山『学びの拠点』基本構想」の中で、
- ・ 福知山市を含めた北近畿地域においては、進学・就職による高校生の都会への流出は、地域社会にとって深刻な課題の一つであることから、当地域において「地域で学び、そして働く」という人材循環システムの構築が必要であり、“教育のまち福知山”として、積極的な教育施策の展開を図り、当地域における学術都市としての役割を担っていることから、
 - ・ 新たな4年制大学（福知山公立大学）、京都工芸繊維大学北京都分校（仮称）を核として、地域、企業、行政・教育機関、その他各種団体等が、連結かつ結集することにより教育のまちづくりを推進し、地域の将来を担う人材の育成、地域社会の発展、地域産業の育成・振興等
を図り、本市を含む当地域の発展に寄与する
こととされている。

⇒ この内容を踏まえつつ、公立大学の学生数の増加や京都工芸繊維大学福知山キャンパスの開設、国で行われている「地方創生に資する大学改革」の議論など、開学後の状況変化に対応した形で、あるべき両大学の地域連携・文理連携を具体化する。

福知山公立大学の現状と将来構想案ー 1 <現状>

平成28年4月、基本理念を新たに「市民の大学、地域のための大学、世界とともに歩む大学」とし、私立大から公立化し福知山公立大学となった。

<教育研究体制> 平成29年5月1日現在

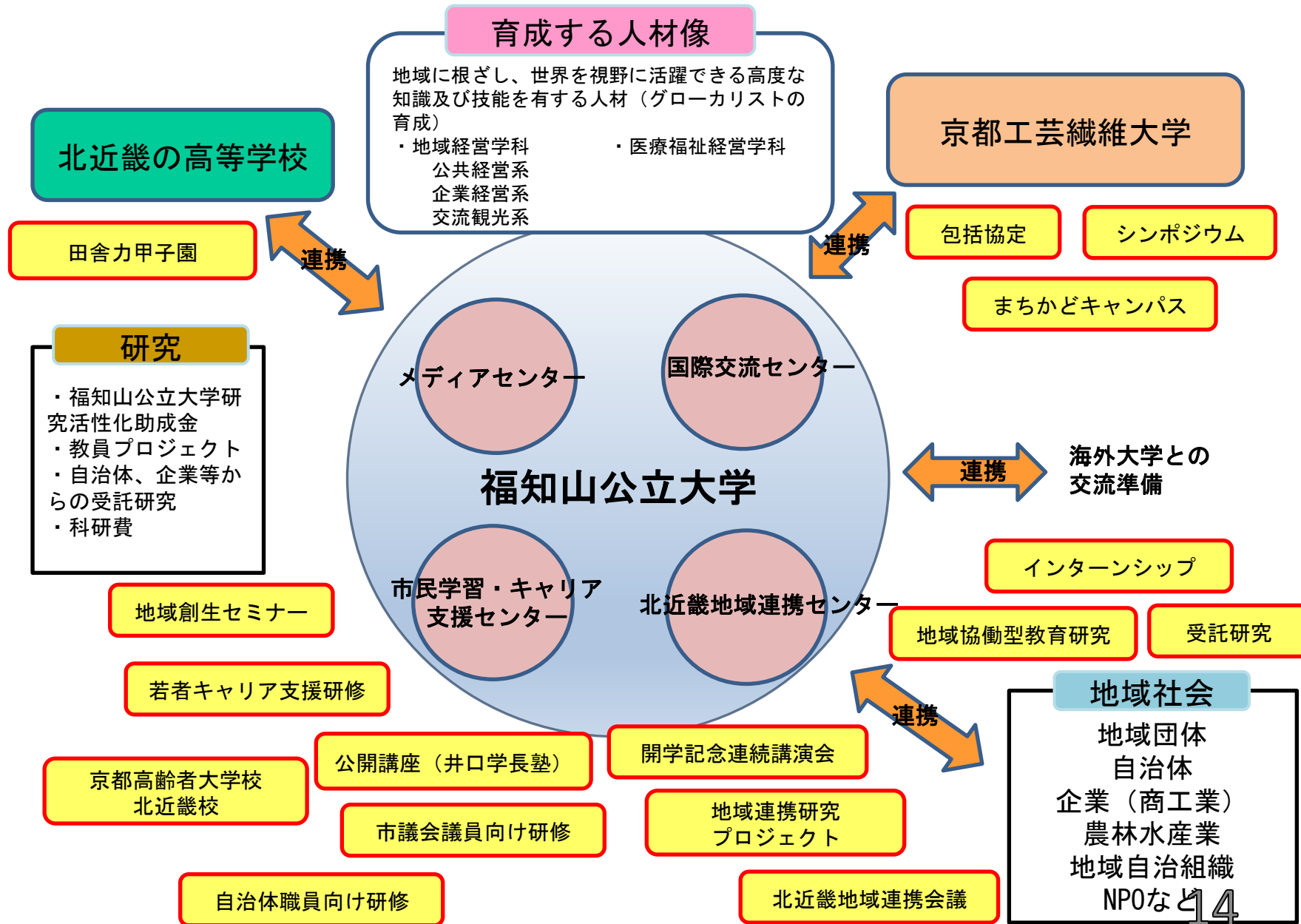
学部	学科	入学定員	在学生数	
地域経営学部	地域経営学科	95名	217名（男：158名、女59名）	計 267名
	医療福祉経営学科	25名	50名（男：26名、女24名）	

付属施設・機関：メディアセンター、北近畿地域連携センター、市民学習・キャリア支援センター、国際交流センター

専任教職員体制

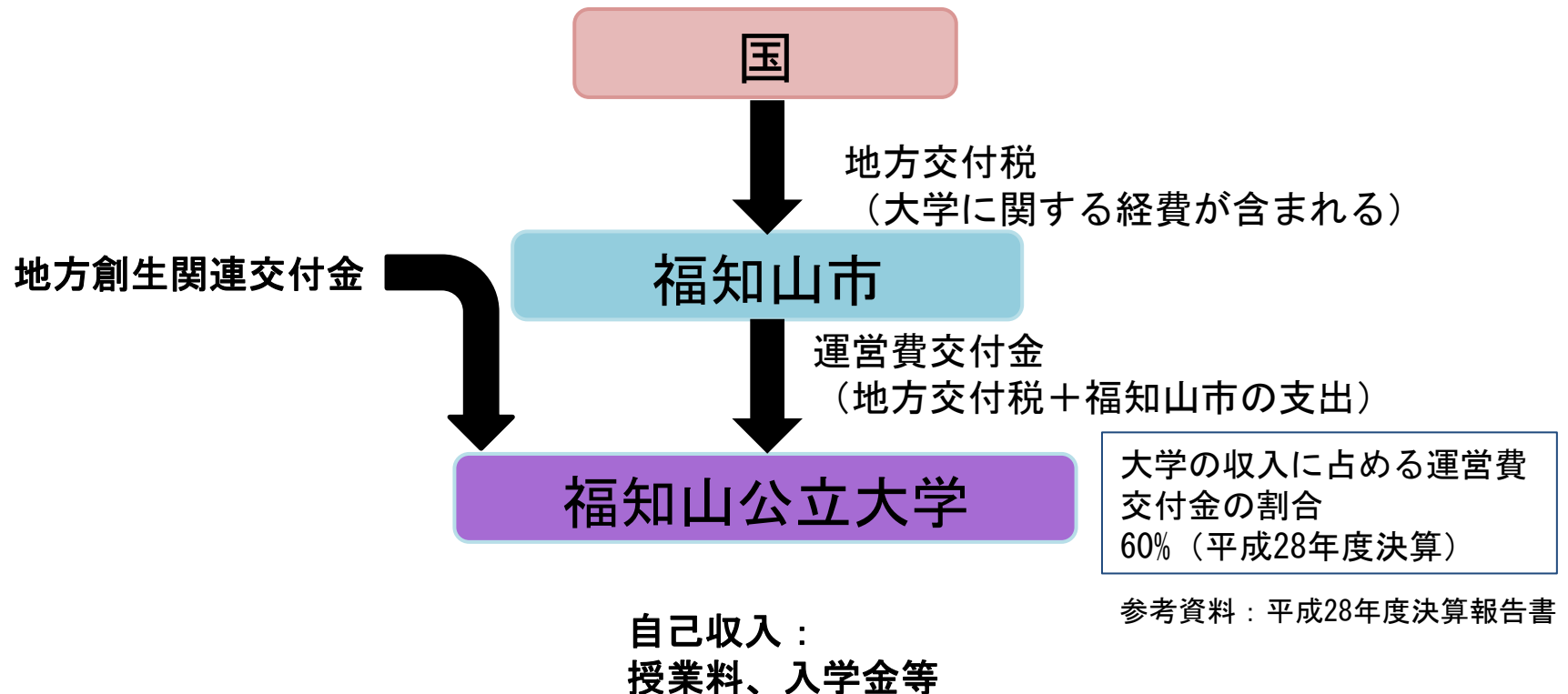
教員		事務職員	合計
教授	13名（うち特任4名）	12名	35名
准教授	7名（うち特任1名）		
助教	3名		
合計	23名（うち特任5名）		

福知山公立大学の現状と将来構想案ー2 <現状>



福知山公立大学の現状と将来構想案ー3 <現状>

<収入構造>



福知山公立大学の現状と将来構想案ー4 <連携>

1. 京都工芸繊維大学や地域とのこれまでの連携の状況

- ・ 包括協定の締結
- ・ まちかどキャンパス（福知山）における教員、学生の協働
- ・ シンポジウム等の共催
- ・ 北近畿地域連携会議の設立

2. 連携を深めることにより期待される効果

- ・ 両大学の教育研究資源を活用することにより、様々な地域課題に対して経営面、管理面、技術面からのアプローチによる効果的な課題解決が可能となる。
- ・ 両大学の学生が協働して行う課題解決型学習により、それぞれの専門分野以外の課題解決の方法について学ぶことができ視野が広がる。
- ・ 両大学が密接な連携をとる知の拠点は、地域の自治体、企業その他各種団体、住民にとっては間口が広くなり、地域の活性化に資する。

福知山公立大学の現状と将来構想案ー5 <将来構想>

<将来へ向けた方向性>

- ①「地域経営学」、「地域協働型教育研究」の検証と深化を図る。
- ②「知の拠点」の充実、進学機会の拡充、高齢化をはじめとした様々な地域課題の解決及び大学経営基盤の強化のためには既存学部の充実及び新学部の設置が必要である。
- ③学部新設・再編に対応した大学院の設置を検討する。
- ④教員や事務職員の増員、施設・設備の整備など修学環境の充実を早急に図る。



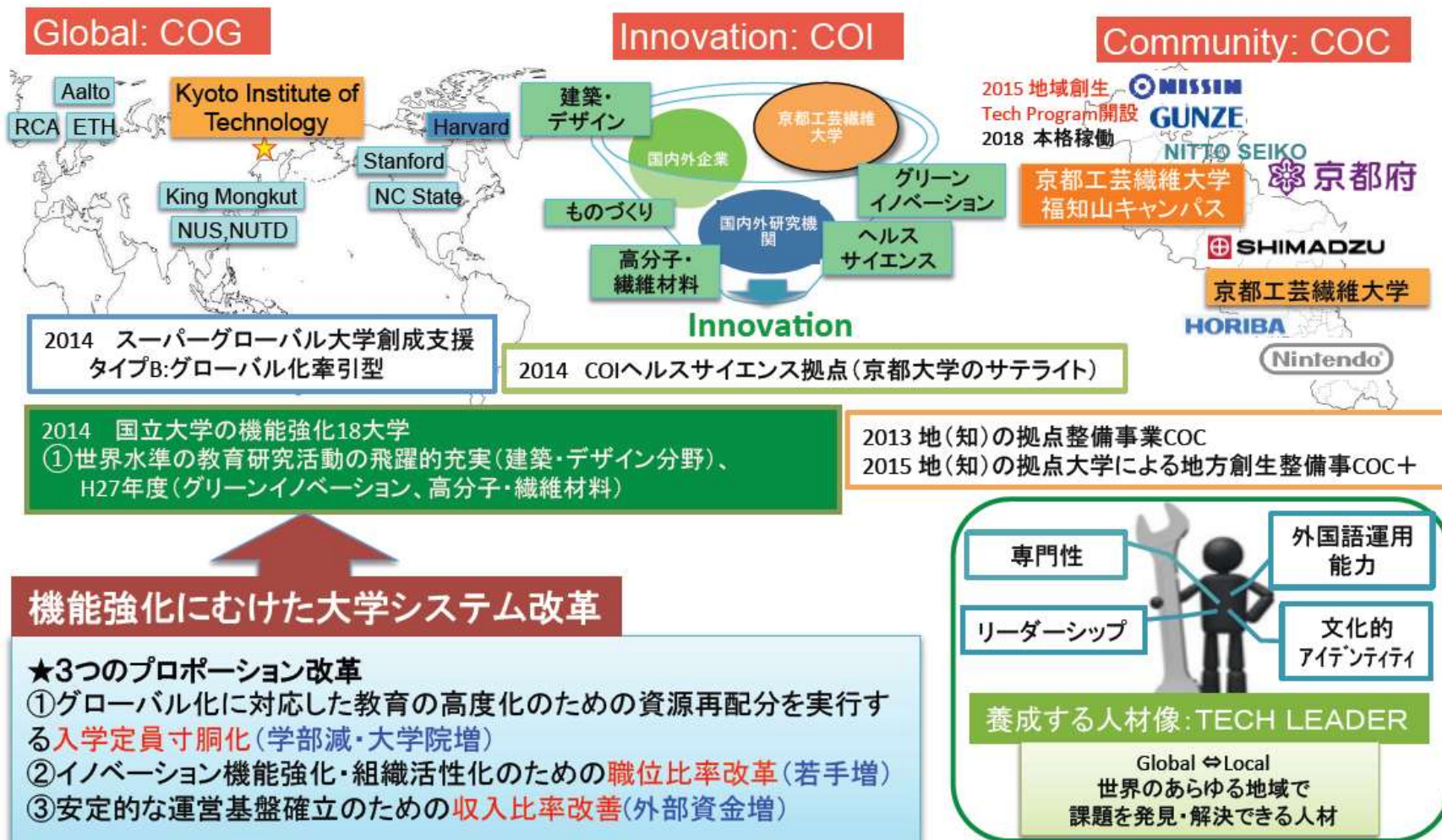
②につき、現状及び将来ニーズ等を踏まえ学内で検討中

既存学部の充実	内容
地域経営学部	公務員人財の育成とともに、これと並行して地域課題の改善・解決に向けて実践的に取り組める人財の育成を目指す。また、地域の情報を収集・分析し、地域課題の改善・解決に向けた方向性等を提案できる人財の育成にも力を注ぐ。総じて地域課題の改善・解決に国際的視野から対応できるグローカリストの育成を目指す。
大学検討案	養成する人財像
工学系	地域産業クラスターや地域生活等の支援の基礎となるICTの向上・創造（ソフトの開発）、生活密着型ソフトの開発を担える人財の育成。 さらにこれらを活用し、新製品の創造（プロダクトイノベーション）、高齢過疎社会における健康状態の見守りサポートシステムの構築等ができる実践的技術者の育成を目指す。
保健福祉系	包括的に地域の医療を担える人財 健康（栄養）、看護、診療情報管理、介護福祉という一連の医療行為（治療除く）を担う。 とくに看護系は適性・技能・知識ともに高度な治療・医療に対応できる人財、患者に寄り添える人財を育成する。 現在の医療福祉経営学科は本案組織の中に位置づけられることになる。

※以上のほか、国際文化系（国際化に対応したグローバル人材）についても検討している。

京都工芸繊維大学の現状と将来構想案—1 <現状>

「国立大学改革プラン」を踏まえ、理工系単科大学である本学の特色を生かし、機能強化の方向性として“3つの中核拠点”を形成すべく“3つのプロポーショナル改革”を実行





学部横断型教育プログラムを知ろう



京都工芸繊維大学 地域創生Tech Program

CASE ● 地域課題解決型

京都北部・北近畿を舞台に “課題解決型”の理工系人材を育てる

学部横断型教育プログラムの中で、グローバル型のタイプと並んで盛り上がりを見せているのが、大学の知の力を地域の課題解決に活かそうというもの。中でも近畿地区で注目されている京都工芸繊維大学の取り組みは、どんな人材を育てようとしているのだろうか。



関係者からのメッセージ

京都北部の地域創生という現場から“新しいものづくり”を考える

●京都工芸繊維大学 理事・副学長
森迫 清貴 先生

工学という学問は20世紀に入って飛躍的に発展・増大した。人類にさまざまな恩恵を与えてきたが、ここに来て行き詰まりも出てきた。例えば、20世紀までは「どういふものがほしい」という欲求に従ってものづくりをすればよかったわけですが、そういう単純なことではなくなってきました。人間の潜在的な欲求を満たす新たなものづくりを実現するには、一つの分野の専門家だけでは

していてもあまり意味がありません。そこで本学では、所属するさまざまな専門分野の先生たちの知を結集して、新たなものづくりや課題解決へのチャレンジを、大学全体で取り組んでいくことにしました。それを実践的に行うには、京都北部の地域創生という社会課題とからめて考えることが重要ではないかという考えが基になり、昨年から本プログラムをスタートさせたのです。

1年たってあらためて学生たちを見てみると、ある意味で期待以上の学生たちが集まったと思っています。みんな何事にも積極的に取り組んでくれています。ここで学んだ経験と専門知識の専門分野を超えて、それが日常になる、と思うので

新産業・起業創出
ができる若者の
定住が必要

3年次後半から福知山キャンパスへ。現場で課題解決を学ぶ

●地域創生Tech Programの4年間のカリキュラム

1年次		2年次		3年次		4年次			
前期	後期	前期	後期	前期	後期	第1Q	第2Q	第3Q	第4Q
福知山キャンパス				京都府キャンパス					
基礎科目 【基礎科目】基礎科目(三大共同科目)・基礎科目(基礎科目)				基礎科目 【基礎科目】基礎科目(三大共同科目)・基礎科目(基礎科目)		基礎科目 【基礎科目】基礎科目(三大共同科目)・基礎科目(基礎科目)			
地域創生導入PEL 基礎科目導入科目				地域創生導入PEL 基礎科目導入科目		地域創生導入PEL 基礎科目導入科目			
応用生物基礎 (応用生物に関する専門科目)				応用生物基礎 (応用生物に関する専門科目)		応用生物基礎 (応用生物に関する専門科目)			
応用化学基礎 (応用化学に関する専門科目)				応用化学基礎 (応用化学に関する専門科目)		応用化学基礎 (応用化学に関する専門科目)			
設計工学基礎 (電子システム、情報工学、機械工学に関する専門科目)				設計工学基礎 (電子システム、情報工学、機械工学に関する専門科目)		設計工学基礎 (電子システム、情報工学、機械工学に関する専門科目)			
デザイン基礎 (デザイン、芸術に関する専門科目)				デザイン基礎 (デザイン、芸術に関する専門科目)		デザイン基礎 (デザイン、芸術に関する専門科目)			

※ デザイン・経営に関することは、デザイン・科学に統合する予定で認可申請中。



応用化学系コース2期生
小畑 健太郎さん
●京都府立福知山高校出身

応用化学系コース2期生
中島 広貴さん
●神奈川県・横浜学園高校出身

応用化学系コース2期生
中島 沙恵さん
●京都府立西舞鶴高校出身

現場で見て考えたことを、地域づくりに活かしたい

中島さん、地
時、文系
したが、
うと知り
るのだ
めま
思っ
てい
く、日
を化
るも
るA
は夏に
題導入
3つの
コー
ブで表
れた地
内の学

専門性

外国語運用
能力

リーダーシップ
アントレプレナー精神

文化的アイデンティティ
地元アイデンティティ

地域TECH LEADER

●ダビンチ(AO)入試

※一般入試は募集しない。
【募集人員】一般科14名、地域科16名、社会人科若干名
【選考方法】第1次選考：書類選考、第2次選考：スクーリング
【試験科目】スクーリング
【入試日程】出願：9月21日～29日/第1次選考：10月20日/第2次選考：11月25日・27日/最終合格発表：12月9日

●学域・課程の改編について

京都工芸繊維大学では、平成30年4月より学域・課程の改編を実施予定。既存学域の教育内容の継承と発展を目的として、生命物質科学域の化学、応用化学、高分子工学、応用化学系3課程を「応用化学系」に統合。また、設計工学域のデザイン・経営工学課程と応用科学域のデザイン・建築学課程を統合し、「デザイン・建築学課程」とする。(いずれも認可申請中のため変更可能性あり)

●問い合わせ先【入試課(新入生課)】/Tel. 075-724-7184 /Email: nyushi@kkt.ac.jp

領域展開基盤

- 大学の強み特色を明確化・重点化し、国内外の企業、大学・研究機関との融合・協働を図ることによりイノベーションを創出する基本構想の打ち出し
- 分野融合プラットフォーム構築による研究活動範囲の拡大・深化→デザインを機軸としたバックキャスト型のイノベーション創出・実装展開



領域イメージ

暮らしに直結する社会設計を、京都工芸繊維大学特有の融合領域「デザイン・建築」分野を技術融合の中核(セントリック)とし、国内外の技術知を結集した先端的技術融合を実現
(伝統的・芸術文化的要素も)

本学の強み・日本の強み

人々の人生・生活に関わる世界共通の課題に対し、先端技術によって「安全・安心」「豊かさ」をもたらし、その「持続性」を担保する「スマートライフ・イノベーション」を追求

世界に発信する日本の実装デザイン拠点

Design Centric Engineering



KYOTO Design Labの実績・経験

【プロジェクト・テーマ例】

- ◆超高齢社会における農村・農家の将来像構想
- ◆大規模災害を想定した拡張コミュニティ形成
- ◆災害発生時におけるライフライン配置設計
- ◆ICT・ロボティクス技術を活用した地域医療福祉・工学連携のモデルケース構築
- ◆バイオリソースを活用した医薬品開発とデザイン・マーケティングの融合プロジェクト
- ◆文化財保護・伝統建築再生・保存(構造解析・耐震化)プロジェクト
- ◆高効率スマートグリッドによるスマートシティ構想
- ◆先端複合新材料を活用したサステナブルシティ・ライフ構想 等々

プラットフォームの機能拡張強化

連携企業

連携大学

バイオ 繊維 電子電気 昆虫科学 材料化学 デザイン 建築 情報工学 機械工学

試行・反復

KYOTO Design Lab

融合

先端理論・技術

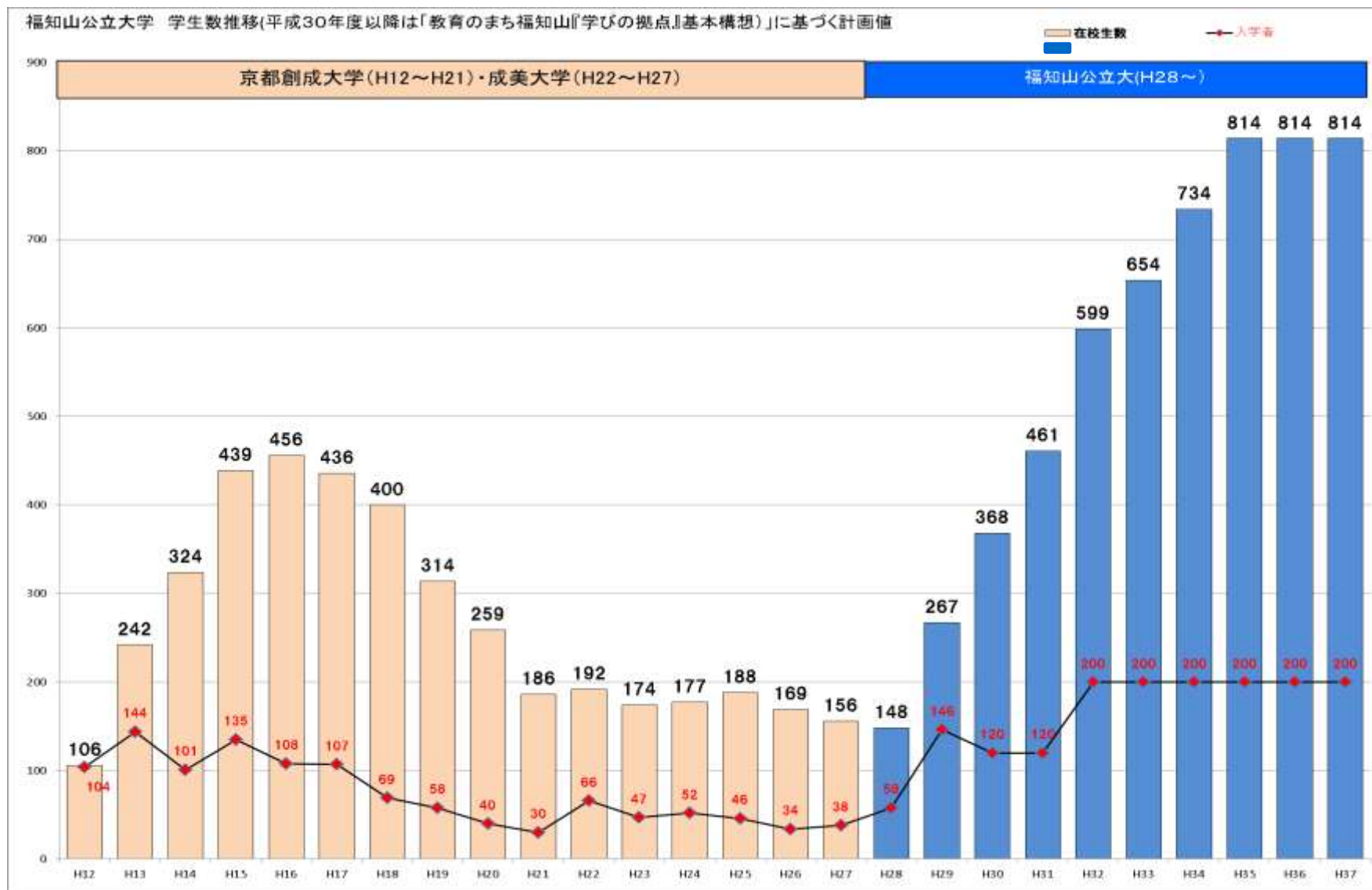
実装

スマートライフ・イノベーションの実装

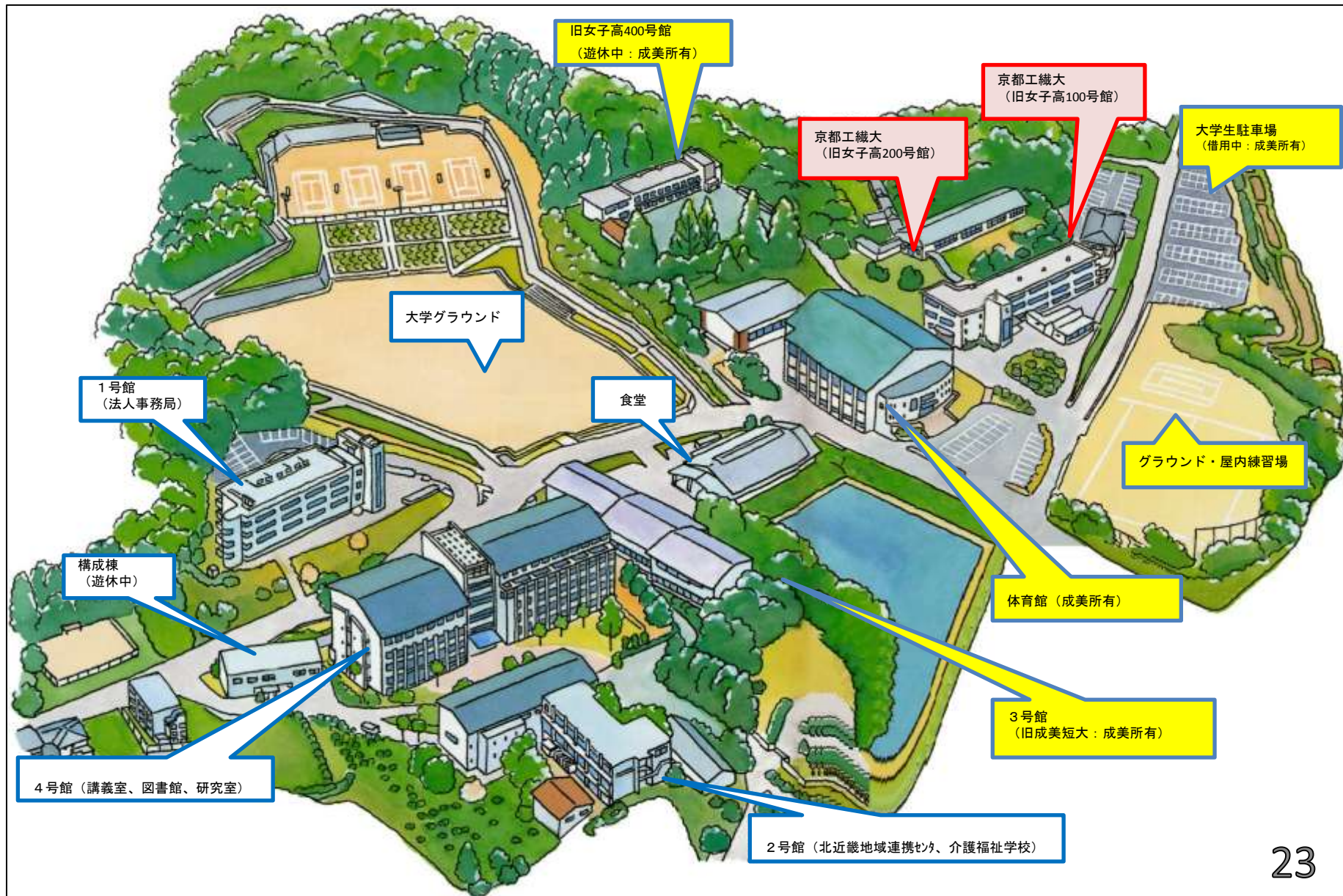
- ・省エネデバイス(パワエレ)
- ・スマートグリッド 等
- ・創業、再生医療、医工連携
- ・介護・看護ロボティクス 等
- ・IoT(IoE)、ビッグデータ活用
- ・複合材料、精密加工 等
- ・スマートハウス、スマートシティ
- ・都市再生、保存利活用 等

資料集

福知山公立大学 学生数の見通し



福知山公立大・京都工繊大 キャンパス周辺図



北近畿地域の高校生の進学状況等

■平成27年度学校基本調査

	北近畿地域 (10市4町)	京都府北部(5市2町)							京都府北部 計	兵庫県(5市2町)		兵庫県北部 計	全国	参考	
		福知山市	舞鶴市	綾部市	宮津市	京丹後市	与謝野町	伊根町		但馬地域 (3市2町)	丹波地域 (2市)			京都府	兵庫県
人口(2015年国勢調査)	570,788	78,956	84,016	33,835	18,427	55,096	21,842	2,110	294,282	170,311	106,195	276,506	127,110,047	2,610,140	5,536,989
高等学校卒業生数 a	5,523	1,150	577	296	369	500	126	—	3,018	1,650	855	2,505	1,064,376	22,966	45,872
大学等進学者 b	2,747	580	303	125	198	244	52	—	1,502	865	380	1,245	579,938	15,249	27,886
4年制大学進学者 c	2,314	511	233	92	178	206	35	—	1,255	704	355	1,059	519,132	13,911	25,469
短大進学者 d	404	68	42	33	20	38	17	—	218	161	25	186	55,620	1,254	602
専修学校(専門・一般課程)進学者 e	1,291	223	130	68	90	151	52	—	714	399	178	577	232,817	4,291	9,212
公共職業能力開発施設等進学者 f	94	13	10	6	17	9	4	—	59	31	4	35	6,376	97	132
就職者 g	1,253	296	107	87	62	93	16	—	661	315	277	592	188,905	1,977	6,311
大学等進学率 (b/a*100)	49.7%	50.4%	52.5%	42.2%	53.7%	48.8%	41.3%	—	49.8%	52.4%	44.4%	49.7%	54.5%	66.4%	60.8%
4年制大学進学率 (c/a*100)	41.9%	44.4%	40.4%	31.1%	48.2%	41.2%	27.8%	0.0%	41.6%	42.7%	41.5%	42.3%	48.8%	60.6%	55.5%
短大進学率 (d/a*100)	7.3%	5.9%	7.3%	11.1%	5.4%	7.6%	13.5%	0.0%	7.2%	9.8%	2.9%	7.4%	5.2%	5.5%	1.3%
専門学校進学率 (e/a*100)	23.4%	19.4%	22.5%	23.0%	24.4%	30.2%	41.3%	0.0%	23.7%	24.2%	20.8%	23.0%	21.9%	18.7%	20.1%
就職者比率 (g/a*100)	22.7%	25.7%	18.5%	29.4%	16.8%	18.6%	12.7%	0.0%	21.9%	19.1%	32.4%	23.6%	17.7%	8.6%	13.8%

＜今後の成長分野＞

「未来投資戦略2017」（内閣官房日本経済再生総合事務局公表。下記資料参照）によると、第4次産業革命（IoT、ビッグデータ、人工知能（AI）、ロボット）の先端技術をあらゆる産業や社会生活で導入することが今求められることとして記述。

アベノミクス成長戦略は、今どこにいて、何が求められているのか？

今後の課題

しかし、民間の動きはいまだ力強さを欠く(設備投資、消費性向)

◆先進国共通の課題

「長期停滞」(Secular Stagnation)

需要面：新たな需要創出の欠如

供給面：生産性の長期伸び悩み

今、求められるもの (成長戦略第二ステージの課題)

第4次産業革命（IoT、ビッグデータ、人工知能（AI）、ロボット）の先端技術をあらゆる産業や社会生活で導入

Society 5.0 の実現

狩猟社会 ◆ 農耕社会 ◆ 工業社会 ◆ 情報社会 ◆ Society 5.0

- ・革新的技術を活かして一人一人のニーズに合わせたサービス提供による社会課題の解決
- ・成長のフロンティア（新たな需要の創出と生産性革命）

<昨今の政策提言等>

- 大学における工学系教育の在り方に関する検討委員会「大学における工学系教育の在り方について（中間まとめ）」（平成29年6月27日）

『近年の情報通信技術関連の急速な進展が産業や社会の急速な構造変革をもたらし、第4次産業革命1や超スマート社会(Society5.0)2がうたわれる中で、戦略的に強化すべき基盤技術として、AI（人工知能）、IoT（Internet of Things）、ビッグデータ解析技術、システム構築技術、サイバーセキュリティ技術などが挙げられる。』

『第4次産業革命や超スマート社会(Society 5.0)、あるいはその先の時代において要請される人材育成のための工学系教育の革新を行い、新たな産業を支える基盤技術の創出を行うことができる人材を育成することが、喫緊の課題といえる。』

- 日本経済団体連合会「グローバル人材の育成・活用に向けて求められる取り組みに関するアンケート結果」（平成27年3月17日）

『グローバル経営を進める上での課題については、「本社におけるグローバル人材育成が海外事業展開のスピードに追いついていない」との回答が最も多く(194社、63%)、次いで、「経営幹部層におけるグローバルに活躍できる人材不足」「海外拠点の幹部層の確保・定着」などが多く挙げられ、グローバルに活躍できる人材不足が大きな経営課題として認識されていることがわかった。』

○ 「知の拠点（地方大学）の振興と若者定着・産業振興に関する懇話会」※において、産業団体の意向として、「新たなローカルイノベーション、共同研究及び新産業分野の創出と技術移転」について、

- 情報（IT）の活用による生産管理システムの構築や操業形態の効率化の提案に期待する。
 - 新素材や、製品の研究・開発で連携したい。
 - 研究や開発に向けた社が保有するデータの提供や機器設備の使用が可能である。
 - 技術や設備の連携には積極的に協力する。
 - 連携できる分野を探っていきたい。
 - 中小企業である弱みを、産学連携により強みに変えることができる。
- との意見をいただいた。

※ 「知の拠点（地方大学）の振興と若者定着・産業振興に関する懇話会」について

福知山公立大学、京都工芸繊維大学など「知の拠点」となる地方大学と長田野工業団地をはじめとする各企業、また、地域の商工業施策をリードする商工団体、さらには行政それぞれが連携し地域創生を牽引するための意見交換の場。

大学間連携について

(大学は地域の国際的な交流拠点)

教育	学士課程	・学位の授与 ・履修証明プログラム ・各種資格 ・単位互換 ・留学生の受け入れ
	大学院	・単位互換
研究		・基礎・応用研究 ・共同研究 ・受託研究（外部資金） ・学会の開催 ・シンポジウムの開催
地域貢献・地域連携	市民	・生涯学習 ・ボランティア団体との交流
	産業	・受託研究・共同研究の実施 ・研究生の受け入れ ・地域の自然・文化遺産の活用 ・観光産業の振興
	高齢化	・健康栄養指導
	国際化	・留学生の受け入れ ・海外観光客
その他		・学生寮の設置運営 ・大学以外の学校との交流 ・海外大学との交流 ・インターフェースとしてのセンター設置